

教訓生かせ 情報素早く

宮城県総合防災訓練

シリーズ「学生同行ルポ 復興元年 弾み付く宮城」は、東日本大震災で大きな被害を受けたながらも復興に向かう宮城県の動きを、地元の大中学生とともにルポする。3回目のテーマは「防災・減災」。宮城県は9月3日、「防災週間」に合わせた総合防災訓練を実施した。仙台市や石巻市など過去最多の18市町村と、国の出先機関や陸上自衛隊など20機関の約400人が参加。東日本大震災級の地震が発生した際の初動対応と、発生3日目の被災者支援に関する情報連絡体制や自治体間連携を確認した。緊迫感ある訓練に間近で触れた学生3人が防災・減災について何を感じたか、村井嘉浩知事へのインタビューを交えて紹介する。

宮城県の総合防災訓練は、情報のやりとりを中心とした図上訓練ながら、18市町村と連携するのは初めての試み。県庁5階の危機管理センターや危機対策課を情報の発信地点とした訓練に、仙台大体育学部健康福祉学科の4年奥山愛子さん(21)と、3年田中亨さん(21)が同行した。

午前9時すぎ、二陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、沿岸部に大津波警報が発せられた。上自衛隊員、海上保安庁の職員ら約20人は職員として、情報収集と共有、自治体間連携の強化を図った。

石巻、栗原両市は県への被害状況の報告とともに、それぞれ実際に図上訓練を実施した。県は大震災時の反省として、市町村庁舎が被災して連絡が取れなくなつた場合に備え、衛星携帯電話を現地に運ぶ手順も確認した。

奥山さんは「大震災では庁舎全体が被災した町があり、情報が途絶えてしまつたことが痛手だった」と聞いた。そういう場所には衛星携帯電話を届けることも想定した。被災地の宮城県ならでは訓練だと思つた。地域によつて被災状況は違つたろうか、この訓練を重なることによつて情報共有は可能になると感じた。訓練を終えて、村井知事と話をした。

3日目の状況想定。午後5時過ぎから48時間続いた。被災3日目を想定したメニューで訓練した。いままに被害の全容は把握できない状況設定で、県域に自衛隊の派遣を要請し、救援活動が本格的にスタートした。食料、水、救急物資のニーズを市町村ごとに把握し、物資の調達や運搬手段などを確認した。

田中さんは「想定外の大被害があった震災を体験したから、訓練の内容にその教訓を生かしているのが分かった。災害に対応する時は誰でも焦りが出してしまう。冷静に行動できるような訓練を積み重ねていく必要がある。一人一人が役割をこまめに果たしていかないと」と感じた。

宮城県は宮城県沖地震(1978年)が発生した「国民防災の日」の6月12日にも、約3900人の参加に重点事業を定めている。

シリーズ「学生同行ルポ 復興元年 弾み付く宮城」は、来年3月まで毎月第1日曜日の河北新報朝刊に掲載します。本年度内に7回程度を予定しており、次回11月のテーマは「支え合い」を予定しています。企画は河北新報社事業部、協力は宮城県震災復興・企画部。



図上訓練で、関係機関との連絡に対応する県職員ら。10月3日午後1時20分ごろ、宮城県庁

学生同行ルポ
復興元年
弾み付く宮城
3 防災・減災

被災を糧に心強い備え

仙台大体育学部健康福祉学科4年 奥山愛子さん
仮設住宅で入居者への運動指導に取り組んでいる。被災者支援のあり方を重点的に考えてきたが、避難所運営や物資の支給など、災害発生時に行政が担う役割の大きさを知った。他県との一層の連携など、被災を糧にした備えを心強く感じた。

住民とも情報共有して

仙台大体育学部健康福祉学科3年 田中 亨さん
運動指導を通して被災者と触れ合う活動の中で、住民同士が情報を共有する大切さを感じている。災害発生時に一人一人が適切に行動するには、県と市町村との連携に加え、市町村から住民に向けた正確で的確な情報発信が不可欠だと痛感した。

情報伝達メディア多様化 減災へ経験と教訓を発信

田中 災害時の情報連絡に必要なのは確認した。宮城県の考え方は、奥山 住民への情報伝達に関する対策はあるか。知事 救助・救援、避難者支援を迅速に行うためには情報収集が非常に重要。今回の訓練では情報が途絶した市町村からの情報収集をどう行うかの手順などについて、関係機関とともに確認してきた。膨大な量の情報をいかに短時間で集約・分析し、対面を、多様なメディアで迅速に伝達しながら対応策を講じ、関係機関とともに確認してきた。膨大な量の情報をいかに短時間で集約・分析し、対面を、多様なメディアで迅速に伝達しながら対応策を講じ、関係機関とともに確認してきた。膨大な量の情報をいかに短時間で集約・分析し、対面を、多様なメディアで迅速に伝達しながら対応策を講じ、関係機関とともに確認してきた。

村井知事 学生とQ&A

村井知事 学生とQ&A
「防災上の連携・協力に関する協定」を締結している。協定の円滑な運用へ、日頃から「顔の見える関係」の構築を目指す。奥山 9月1日の市町村の防災訓練では、避難や避難所運営も訓練していた。知事 住民の命に直接関わっている訓練として重要。市町村は積極的に訓練し、実施・検証・見直し・実施のサイクルによって対応を重ねてほしい。田中 今回は18市町村の訓練だったが、35市町村全体でやっていると考えると、35市町村の参加は得られなかった。早い段階から訓練の実施計画をし、多くの市町村が参加できるようにしたい。奥山 減災という観点から、大震災を経験した宮城県が伝えていく役割がある。知事 県内の沿岸市町村は復興に向け、津波で再び犠牲者を出さない避難計画の要素を取り込んで新たなまちづくりを進めている。県は被災者の概要や応急復旧対応の教訓などを記録としてまとめ、後世へ語り継ぎ、情報発信する。

50周年
つねに新しく、セコム。

あれ？
庭先にいるの
だれだろう…

ホームモニター機能

玄関やお庭などに「センサーライトカメラ」を増設すれば、不審者を感じて撮影。カラー液晶モニターですべてチェックできるほか、後から録画画像を確認することもできます。

ゆうこちゃん、
いつ見ても
カワイイわ。

データお預かり機能

ご家族の大切な写真から、健康保険証などの身分証明書や服用中のお薬の情報、さらには親戚や友人の電話番号といった個人情報まで、セコムが画像で記録してお預かりします。

おトクな情報、
なにか
あるかしら？

オンライン便利機能

各種防犯商品やセコムが厳選した食品のオンラインショップ、さらに保険やメディカルサービスのご案内など、セコムグループはもちろん、セコムが提携する企業のサービスをご利用いただけます。

あっ、
ママからの
メモだ！

伝言メモ機能

外出して家を留守にする時などに、ご家族に手書きの伝言メモを残すことができます。メッセージが確認されると、あらかじめご登録いただいた携帯電話などにEメールでお知らせします。

※画像はイメージです。

大切なご家族を守る。情報を守る。そして、暮らしを便利にする。
進化した「新ホームセキュリティ」、誕生。

新しい時代の新しいニーズに対応するために、セコムのホームセキュリティが進化しました。どなたにも使いやすい、タッチパネル式の10.4型カラー液晶モニターを採用。防犯・火災監視・非常通報などのセキュリティサービスに加え、お客さまの大切な情報を守る新しいサービスをスタート。さらに、暮らしに役立つ機能も追加しました。毎日を、もっと「安心」に。そして「便利」に。これが、ホームセキュリティの新しいカタチです。

ほんとうの「安心」は、ここにあります。

各種センサーが感知したり非常ボタンを押すと、セコムの緊急対応員がご自宅に急行します。

セコム・ホームセキュリティ G-カスタム

サービスについて詳しくは、ホームページまたはフリーダイヤルで。 0120-025756 (24時間・年中無休) **セコム株式会社**